

『わたしはあなたがたを友と呼びます』 (福音書ヨハネ15:9-17)

今週の日課もヨハネの福音書による復活節が続く。先週はぶどうの木の比喩を学んだ。そしてぶどうのつるの手入れと剪定を学んだ。今週も同じ聖書の章が続き本日の日課から、イエスは愛と友情について話されている。イエスは弟子たち(私たち)に命じられた。イエスは<sup>私たちに</sup>「神の愛にうちに生きるように」と命じられた。イエスは神の愛にうちに生きる喜び、愛にうちに生きる喜びに触れられた。それはイエスが推移されたこの節(先週の日課は容赦なく切り捨てる⇒愛に生きる)に、この1週間は私の心がいっぱいであった。

『わたしはあなたがたを友と呼びます』とイエスは言われた。

「友」とは驚くべきタイトルである。

中東の社会はまさしく階級制度を維持しようとしている。皇帝あるいは王が国を支配し、父が家を支配する。家族の繋がりで構成されているこの社会は、奴隷や召使が存在した。これらの言葉を換えるなら、奴隷や召使は、家族の絆で保護された組織外にあり、ほんのわずかな保護と配慮が必要とされていた。召使は権威や力をほんのわずか、あるいはまったく持っておらず、自分自身の人生をコントロールできなかった。

神の偉大さと比較して小さき私たち人間は—あなた方は推測したかもしれないが—神の前に召使や奴隷として現れているのは、普通のメタファー(隠喩)である。イエスの母マリアは主の御使いに言った。『私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおりこの身になりますように』。(ルカ1:38)

詩編119: 神の律法をたたえる詩編『わたしはあなたの<sup>しもべ</sup>僕です; あなたが分からせてくだされば、あなたの定めを知ることができます』。(詩編119:125)

あなたがたに促したい。今を想像してほしい。正面の戸をノックする者がいる。誰も来る予定がなく、好奇心をもって戸を開く。三位一体の神が戸口に立っている。万軍の主、天地の創造主、すべての人の罪の救い主が戸口に立っている。今、どのように感じているだろうか?

真実は—<sup>おそ</sup>畏れ多く、膝が震えるだろう。そして恐怖が続くだろう。私たちは地に<sup>ひれふ</sup>平伏して神のご命令を待つだろう。全能の神のみ前に立っている私たちは誰であろう?

私は警察車両(パトカー)の近くを運転すると神経質になる。スピードの規則を破って捕らえられると想像してしまう。神の臨在に、私はすべての罪を考えてしまう。

その罪は、私が犯したのか、なにもせずに放置したのか、そしてさらに震える。

『わたしはあなたがたを友と呼びます』とイエスは言われる。イエスは再び言われた。それは階級制度を混乱させ、権力構造をひっくり返し、想像外の親密さに迎えられた。

従ってあなたがたに促したい。今、想像してほしい。正面の戸をノックする者がいる。なぜなら三位一体の神が戸口に立っておられ、友のためにすることは、つまりあなたは神をお茶に招待するのだ。神は今、あなたの台所の机の前におられる。小綺麗なお茶のカップを用意する。あなたは座っているのだが、あなたの膝（と私の膝）がまだ震えている。次は何をするのだ？

あなたがたに、かつて愛した友に何が起きているのかと憂<sup>うれ</sup>い<sup>い</sup>ることを促したい。あなたがたは、その友（イエス）が律法と掟をあなたに告げるのを待つのだろうか？友があなたはいかに生きるべきかと告げるのを期待するのか、それとも望むのか？あるいはその友に人々はどうしているのかと、あなたがたは尋ねるのか？

神さま、あなたはどうされていますか？  
地上では全世界的感染や地球気候変動などの大変なことが起きているのを知っています。神さま、是正されない貧困や人種偏見などの不正義を知っています。しかし神さま、拡大している全宇宙はあなたの創造物です。今のこの大画面に、あなたはどうされようとしているのですか？

神さま、あなたはどうされていますか？  
神についての神のみ言葉を聞くとは何でしょうか？ それはあなたがたや私に、聖十字教会や他の教会には一般的にそれほど影響を与えませんが、友は尋ねたかも知れませんか—神さま—今のあなたの御心にあるのは何なのでしょう？

神さま、あなたはどうされていますか？  
私たちは友として、どのようにして神さまに耳を傾ければよいのでしょうか？

あなたは私たちを友として選んで下さったからです。神を知るために。  
あなたは私たちを友として招いて下さったからです。神を知るために。  
膝まづいて指示を待つ召使ではなく。業務や義務を盲目的に従う召使ではなく。

この聖書の箇所にある親交（わたしの友です）は規則破り、境界線の破壊である。  
明白に階級制度の門外であり、明白に家族制度の門外であり、期待と義務の門外である。

年齢、人種、（生物の）種<sup>しゅ</sup>さへの境界線の外である。友よ。  
では私たちは、神への友としてどのように生きるのか？  
なぜならこの聖書の引用箇所は、私たちにその愛を命じている。

覚えてほしい。最初に、すべての人に存在されるイエスにお会いすることを促されている。  
人々に存在されるイエスにお会いするために、向こう側の朝食の席におられるイエスを見るのだ。家族や隣人に存在されるイエスにお会いすること。  
私たちの間にも存在されるイエスにお会いすること。  
飢えや病気の者に存在されるイエスにお会いすること。  
私たちの人生や心のうちに受け入れられることがよく理解できない、あるいは簡単ではない人々に存在されるイエスにお会いすること。

これは何も新しい事ではないと私は思っている。遠くに住む友に電話をかけるようなことであるが、そうすることを覚えているだろうか？  
この友—イエスの友—のために立ち止まり、目を見て、耳を傾ける。

さらにもう1歩進むことを促したい。すべての命ある創造物に存在されるイエスにお会いする使命が与えられている。木々に存在されるイエスにお会いする。  
さらさらと鳴る新芽や、桜の花が静かに散ってゆく漂いに存在されるイエスをお聞きする。  
飛翔する鳥に存在されるイエスにお会いする。  
ハミングバード（ハチドリ）のぶんぶん鳴る羽音に、神の真実をお聞きする。

汚染された川、舗装された野原、プラスチックで汚染された海にイエスを探すために。  
私たちが思いついたことを明らかにするのではなく、親交のなかで、神が私たちに示されたいと願っておられることに耳を傾けるのだ。  
傾聴すると、私たちは愛すること、ぶどうの木のように愛することを命じられている。  
豊富に、すべての変化に、新しい機会を求めて空中に広がる蔓のように愛することを。  
そのような無謀さ—私たちが刈り取られる時—をもって愛すると、実りの多い方向のみに私たちはさらに成長する。

今、想像してほしい。あなたの正面の戸をノックする者がいる。  
誰も来る予定がなく、好奇心をもって戸を開く。三位一体の神が戸口に立っておられる。  
万軍の主、天地の創造主、すべての人の罪の救い主が、あなたの戸口に立っておられる。  
戸を開けるあなたが選ばれた—世界に愛の実を結ばせるために、神によって選ばれた。

（文責長澤猛）